

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900561
法人名	有限会社介護サービスゆう
事業所名	グループホームゆう
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字奈良3768番地3
自己評価作成日	平成26年9月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・小学校に隣接しており、毎日元気な子供たちの声を聴きながら生活している。天気の良い日には校庭に散歩に出かけている。また、小学生との福祉体験授業など交流の場ももたれている。</p> <p>・社訓の「利用者様は我が父母なり」の思いで、お一人お一人に接している。家族のように明るく和やかな生活を送れるよう心がけている</p> <p>・理念「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活を送れるよう支援する」という理念のもと、利用者の今までの生活や地域との関わりを大切に、継続できるよう支援している</p> <p>・食べたいものをお聞きしながら食事を一緒に作っている。中庭で収穫した四季折々の野菜を使った食事を楽しんでいる</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近所を散歩することが日課となっており、隣りにある小学校の校庭等も散歩されている。小学生の登下校時には、子ども達が声を掛けてくれたりするようだ。校庭の桜の下でお花見したり、ぎんなんを拾ったり、運動会等も応援に行き、親しく交流されている。</p> <p>毎日、午後が入浴時間になっている。浴室は広く檜風呂があり、重度の方用のリフトバスも設置している。又、ご自分の力では浴槽をまたぐことが難しくなった場合は、職員2人で介助して湯船で温まれるよう支援されている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず日をずらして支援されている。又、1番風呂に入りたい方にも希望に応じた支援に努めておられる。</p> <p>お花の好きな利用者には、居室の窓からお花が見えるように、畑にガーベラ等を植えておられた。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームゆう

(ユニット名) すもも

記入者(管理者)
氏名 田邊千浪

評価完了日 26年 9月 8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			「一人ひとりの個性を尊重しその人らしい生活が送れるよう支援する」の理念をその都度確認しながらケアを実施している	
			(外部評価)	
			理念を居間に掲示しており、職員は理念を常に心に掛けて支援することに努めておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価)	
			小学校の運動会の見学・交流授業・詩吟クラブ等地域との交流を図っている。地域の方が運営推進会議にも参加されたりボランティアとしても関わって頂いている。	
			(外部評価)	
			近所を散歩することが日課となっており、隣りにある小学校の校庭等も散歩されている。小学生の登下校時には、子ども達が声を掛けてくれたりするようだ。校庭の桜の下でお花見したり、ぎんなんを拾ったり、運動会等も応援に行き、親しく交流されている。地域の方達は、カラオケや読み聞かせ、詩吟等のボランティアで来られており、又、近所にある保育所の園児も来て、踊り等を見せてくれ、利用者を楽しませてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			認知症サポーター研修を事業所で開催した。また運営推進会議を通じ、個別の援助方法を説明したり、外部からの出席者が抱える介護者に対するの対応方法等について相談に乗ったり一緒に考えたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、地域の方・消防署・消防団の方々や家族等の意見を参考にして安全性の向上やサービスの質の向上につとめている。	
			(外部評価) ご家族には、会議に順番に参加していただき、又、利用者も1名ずつ参加できるよう支援されている。利用者は、ホームでの暮らしについて感想等と話されている。地域の方が時々参加したり、避難訓練を会議と併せて行うような時には消防団や消防署の方が参加されている。町の保健福祉課、地域包括支援センター職員からは、介護保険の最新情報や統計等の説明、町内で流行している感染症等の情報提供や注意喚起等がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 保健福祉課や地域包括支援センターと連携をとりあい、サービスの質向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) 町内で認知症高齢者が行方不明になったことをきっかけに、事業所では、いざという時のために、利用者の名前に写真を付けて保管されている。職員は、町が開催する定期の勉強会に参加しており、認知症や虐待等について学んでおられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況に応じて、ご家族と話し合い、安全性を高めるため同意を得、必要に応じてベッド柵を固定している方もあるが、常に全職員に周知徹底をしている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) ヒヤリハット記録の活用等、外部研修時に学んだことを採り入れて、職員が原因やケアについて深く考えるような取組みをすすめられた。たとえば、利用者の靴のサイズが適切か点検したり、歩行時、シルバーカーを使用する等、職員の気付きやアイデアが増えて、利用者の転倒が少なくなっている。外に出たい利用者には、行動範囲の把握や確認をしながら支援されている。骨折した利用者のご家族に同意書を得て、ベッド柵を付け対処したことがあるが、ご本人が動きたい思いが強く、ご家族に状況を見てもらいながら話し合われた。現在は、ベッド柵を外して、歩行器を使い自由に歩けるようにしており、見守りを強化して対応されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修参加やミーティングで学び職員は身体的虐待だけでなく精神面での虐待にも注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修やミーティングで勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い利用者、家族共に理解、納得の上契約、解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議等で家族の意見等をお聞きしている。又面会時等に、不満、苦情、ご希望等があれば、お聞きして運営に反映させている。 (外部評価) お花見の折に「家族会」を開催しており、ご家族にサービスへの要望をお聞きしたり、話し合ったりされている。	 今後さらに、ご家族とともに利用者の暮らしを支えていけるように、事業所サービスについて、利用する側であるご家族から意見や要望を引き出せるような働きかけや取り組みを工夫されてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回のミーティングで意見交換を行っている。随時意見を聞き良いホームが作れるよう心がけている。	
			(外部評価)	
			月1回ミーティング時には、月ごとにテーマを決めて研修を実施されている。職員より、「食事前に口腔体操をしてはどうか」という提案があり、採り入れておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			資格給、昇給、研修費、ボーナス、退職金制度など就業環境を整えてもらっている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修会には可能な限り参加している。毎月ミーティングを行い、伝達研修等を実施し実践に生かせる様努めている。認知症の特別研修等にも参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修会等で知り合った同業者と意見交換を行い交流を深め情報を得たり、輪を広げサービスの質の向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ご本人の行動の状況や精神面の変化を把握し、ご家族からの情報も得ながら交流し、ご希望を伺い目標を立て安心して生活できるよう信頼関係を築いている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、ご家族に入所までの経緯や不安・要望等を伺い、状態把握に努めそれが解決できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの詳細や情報提供し、本人及び家族に最も必要とされるサービスに繋がるよう他機関と連携も図っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩である利用者から学ぶやまうよう心がけている。また現存する力が維持・継続できるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者の思いに添えるよう心がけている。家族には定期的及び必要時に利用者の状況を報告し安心して頂けるよう配慮している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との交流、親しい友人との交流、馴染んで得意なこと、宗教の会合への参加など、今までの生活が継続できるよう支援している。 (外部評価) 「家に帰りたい」気持ちの強い利用者には、ご自宅に戻る機会を作ったり、希望に応じて墓参りや近所に買い物に行けるよう支援されている。知人や親戚の方が来られた時には、居室や居間等でゆっくりお話できるような場を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の個性、特徴などを十分把握しお互いが良い関係が築けるよう職員が適宜介入し支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所者なし。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人、家族等より詳しいアセスメントを行いセンター方式にてその人らしい生活を導き出し支援できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時、利用者やご家族から生活歴、趣味、得意なこと等を聞き取っている。又、日々の会話から探ったり、思いや意向を知ることが難しいような場合は、職員と一緒に歌を歌ったり、塗り絵等を行いながら探ることに努めておられる。又、夜間時、職員がゆっくり過ごせるような時間帯には、利用者のお話をじっくり聞くようにしている。聞きとった情報は、毎日の申し送り簿やミーティングノートに記録して職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、本人、家族、ケアマネージャー等により、アセスメントを行っている。又家族が訪問された時は、ご本人と家族とお話の中からこれまでの生活歴をお聞きするように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態の把握を行い、残存機能の維持向上に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月モニタリングを行い達成感・満足度を評価している。6か月・更新時・必要時にカンファレンスを開催し計画を見直している。	
			(外部評価)	
			毎月モニタリングを実施し、更新時や状態変化時には、ご家族に状況等を説明し、意見や要望を聞き介護計画を作成されている。計画に沿って支援できるよう、利用者別の日誌に介護計画を付け、毎日確認できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子や、ケアの実施、結果、気づき等を個別記録に記入し、全職員で共有し介護計画に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族・利用者の要望に添えるよう対応している。行きつけの理美容院や受診に付き添ったり、柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			隣接する小学校との交流会や散歩に出かけたり、地域のボランティアに来てもらったり、行事に参加することもある。又、消防署に協力してもらって防災訓練を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を 築きながら、適切な医療を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			本人、家族の希望によりかかりつけ医を決定している。又、 緊急時は協力医が対応してくれる。	
			(外部評価)	
			ご家族もしくは職員が付き添って、受診できるよう支援されて いる。ご家族が付き添う場合は、利用者の現状やバイタルサ インをご家族に伝えて、病院で報告してもらっている。検査 結果は、病院からご家族に連絡していただくこともある。発 熱等の時は、協力医に状況を伝えて往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			事業所内の看護職員が定期的に身体状況の観察を行い、 必要に応じて医師や薬剤師等へも相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。または、そうした場合に備えて病院関係者 との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			利用者の情報提供を行い、安心した入院生活、また、早期 退院へ向けての病院関係者との情報交換や退院時カンファ レンスを開催し、退院後の安全な生活に向け支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事 業所でできることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取 り組んでいる	(自己評価)	
			入所時、看取り指針の説明、契約を行い本人、家族の意向 に沿えるような体制を整えている	
			(外部評価)	
			利用者のかかりつけ医の往診を受けながら、職員は最期ま で口から食べられるよう取り組み、看取られた事例がある。 運営推進会議時には、看取り支援の報告が行われた。職員 は、「最後まで関わりが持ててよかった」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急法の講習を定期的に受け緊急時の対処方法を学び実践力を身につけるよう研鑽している。転倒等があった場合は直ぐ施設長に連絡する等連携を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者や施設の状況を考慮し行政や消防職員、地域の方々等の参加、指導の中、火災訓練の実施を行い、グループホームあんず、宅老所職員への連絡、連携体制にて、避難、誘導など訓練している。また地域の防災訓練にも参加し緊急時の応援体制を依頼している。 (外部評価) 近所の方が事業所の隣の空き地で野焼きをして火が広がり、消防署が消火したようなことがあり、事業所横には、新たに地域で消火栓とホースが設置された。事業所の消防避難訓練は、「地震後台所からの出火」を想定して実施された。訓練を実施し、思った以上に利用者の動きが遅いことが分かり、誘導方法の工夫が必要なことを課題に挙げておられた。併設する宅老所と共同で水、缶詰、おかゆ、ビスケット等を備蓄している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳・プライバシーの保持の為の取り組みを行なっている。名前を呼ぶ時は名字でお呼びし尊敬の念を持って優しく敬語で接する。プライドを尊重するなど意識を介護にあたっている。 (外部評価) 昼食時、箸を上下逆に持って食べる利用者がおられたが、ご本人はおいしそうに食べており、職員はタイミングを見ながら声を掛けて対応されていた。利用者の呼び方は、基本的には名字で呼ぶようにしているが、同じ名字の方がいる場合は、名前で呼ぶようにされている。又、入居時、落ち着いた利用者に、「じいちゃん」と呼ぶと落ち着いたことがあり、ご家族と相談して必要と感じた時には「じいちゃん」と呼びかけるようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は、利用者一人ひとりが、自分で決めたり、希望を表されることを大切にし、自己選択ができるような声かけをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの日課に合わせて利用者が自由に自分のペースを保ちながら、暮らすことができるように支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて、職員の送迎で馴染みの理美容院に行かれる。又、衣服の選択お化粧品等も自由にされおしゃれを楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫した野菜を使ったり、食材を切ったり、味見をして頂いたりし、楽しく食べている。片付けは利用者さんが中心にされ、出来ない部分を職員が援助している。	
			(外部評価) 食材は町内の商店から届けてもらい、職員が調理されている。男性利用者が畑で野菜を作っておられ、たびたび食卓に並ぶようだ。調査訪問時には、野菜作りをする利用者のご家族が来られて畑の世話をされていた。利用者は、ゴボウそぎや芋の皮むき等をしたり、食後にテーブル拭きや食器を洗ったりされる。職員は利用者と同じものを一緒に食べながら介助等もされていた。誕生日は、利用者の好みの献立にして、ケーキを届けてくださるご家族もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食前に嚥下体操を行い、利用者一人ひとりの食事摂取量を記録している。水分はいつでも飲めるようにお茶を置いている。必要時には医師の指示を仰ぎ、栄養剤等の補給も行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者に合わせて誘導や、見守りをし、歯磨き、義歯の手入れ、うがい等、口腔の清潔を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの排泄パターンを記録、把握し、トイレでの排泄を支援し夜間も誘導を行っている。	
			(外部評価)	
			トイレは車いすでも入れるような広さに造っており、手すりが設置されている。支援が必要な利用者には、排泄チェック表を付けており、昼間は、排泄パターンをみながら、利用者の癖等も踏まえて、トイレ誘導して支援されている。職員は、トイレの扉の外から声かけして必要時に介助等をしている。夜間、パッドを使う利用者もあるが、可能な方にはトイレで排泄できるよう誘導して支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分補給、食事内容、運動等、気を配っている。医師の指示により、緩下剤を服用している利用者もおられ服薬管理を行っている。	
			(外部評価)	
			利用者一人ひとりに合わせて職員が付き添い、ゆっくりとくつろいで入浴されるよう支援している。納得いく様説明し、入浴を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりに合わせて職員が付き添い、ゆっくりとくつろいで入浴されるよう支援している。納得いく様説明し、入浴を促している。	
			(外部評価)	
			毎日、午後が入浴時間になっている。浴室は広く檜風呂があり、重度の方用のリフトバスも設置している。又、ご自分の力では浴槽をまたぐことが難くなった場合は、職員2人で介助して湯船で温まれるよう支援されている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず日をずらして支援されている。又、1番風呂に入りたい方にも希望に応じた支援に努めておられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し昼間の過ごし方に配慮しながら良眠できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の使用する薬の目的や、副作用、用法や用量を確認し、医師の指示通りに服薬出来るよう支援し、症状の変化を観察をし必要に応じて医師への状況の報告を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴や趣味を理解してうえで、楽しみを持って自分の役割が続き生きがいを持つよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は中庭に出て談笑されたり、歌を歌ったり、散歩や、買い物、宗教の会合、レク外出に出かけたり希望に沿った支援を行なっている。	
			(外部評価) 芋ほりやそうめん流し等、年間3～4回定期の外出の機会を作っている。その際には、車の乗り降りや転倒等、安全に出かけられるよう、法人内の他事業所職員の協力も得ている。墓参りやご自宅に戻ったり、外泊、買い物や、月1回程度、ご家族と外食を楽しまれる方もある。又、病院受診時には、道の駅に寄ってみることもあり、職員と1対1で密にコミュニケーションがとれるようだ。外出が嫌いという利用者には、場所や時間等をみて、ご本人の負担にならないような外出支援に努めておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が自分でお金を持つことでの安心感を得られたり、日常の金銭管理ができるよう、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が電話をしたいときはかけて頂くようにしている。また、年賀状や手紙など希望に応じ送れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある飾り物が皆の心を和ませている。ソファ、畳、こたつ、ひのき風呂など利用者が懐かしく、違和感を感じず居心地良く生活して頂ける工夫をしている。	
			(外部評価) 各ユニットの玄関先には鉢植えの花が飾っており、調査訪問時、利用者は職員と一緒にプランターに花の苗を植えておられた。ユニット建物の間にベンチを置き、昼食後等、利用者のくつろぐ場所になっている。居間に畳を敷き、テレビを囲むようにソファが配置されていた。冬には畳にこたつが設置される。廊下の壁には利用者と一緒に作った四季折々の貼り絵、折り紙で折った暖簾や芋ほり時の写真が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 日の当たる窓際のソファ、中庭のベンチなど利用者が自由に思い思いの場所で過ごせるよう工夫している	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家庭での暮らしの延長を提供できるよう、自宅で使用されていた家具や身の回りの小物などを持ってきていただいて使用している。又希望をお聞きして畳を敷いている。	
			(外部評価) お花の好きな利用者には、居室の窓からお花が見えるように、畑にガーベラ等を植えておられた。畳の間を希望する利用者には、畳を敷いて冬にはこたつを置かれるようだ。各居室には、クローゼットが付いており、利用者それぞれに、ベッドや椅子、衣装ケース、テレビ等を持ち込まれている。神社のお守り札を祀ったり、好きな力士の写真やご家族、動物の写真、塗り絵等を貼っている居室もあった。ご家族からプレゼントされたおしゃべりする人形を置いている方も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、風呂場に手すりを設置し場所が分かるよう表示したり、玄関、ホーム内のバリアフリーや、居室内の畳との段差解消など安全に生活できるよう取り組み、見守り・誘導・必要時の介助を行っている。	
			(外部評価)	